

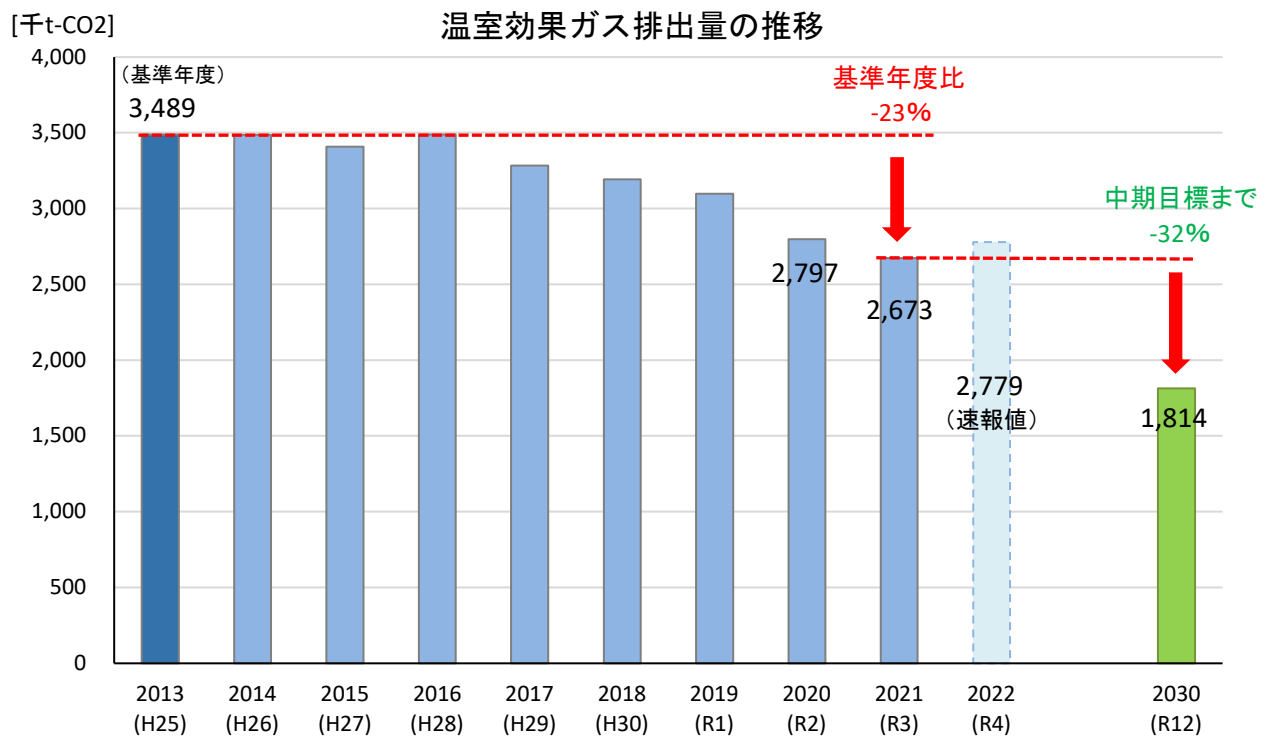
2021（令和 3）年度の温室効果ガス排出量について

令和 7 年 2 月
旭川市環境部

1 2021(令和 3)年度の温室効果ガス排出量【確定値】

(1) 総量

- 2021 年度の本市の温室効果ガス排出量は、2,673 千 t-CO₂でした。
- 前年度の排出量（2,797 千 t-CO₂）と比べて、4.4%減少しています。
- 旭川市地球温暖化対策実行計画（区域施策編・第 2 版）（以下「実行計画」という。）の基準年度である 2013 年度の排出量（3,489 千 t-CO₂）と比べて 23%減少しており、2030 年度の中期目標までは 32%の削減が必要な状況です。

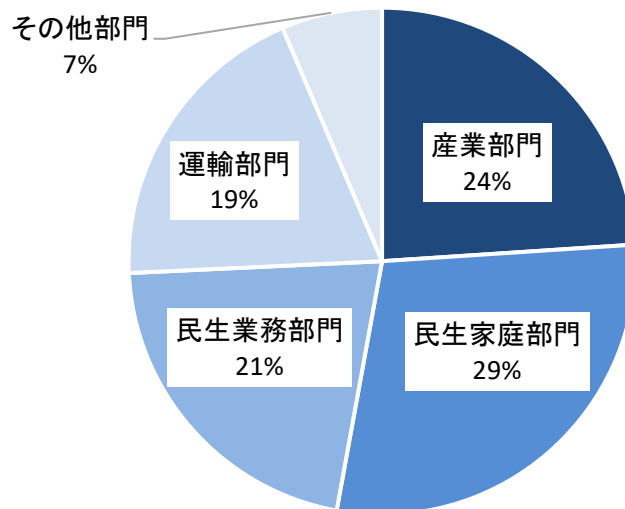


※速報値：2024 年 12 月末時点で入手可能な統計等に加え、未入手の統計データを前年度と同値で仮定した予測値

(2) 部門別

- 民生家庭部門からの排出が最も多く、全体の約 3 割を占めます。
- 次に産業部門、民生業務部門、運輸部門と続き、当該 4 部門で全体の約 9 割を占めます。
- なお、その他部門の減少は、実行計画の改定に併せて森林吸収量を新たに導入したことが主な要因です。

2021年度の部門別排出量（単位：千t-CO₂）



部門別の温室効果ガス排出量

（千 t-CO₂）

部門	2013(H25) 【基準年度】 a	2021(R2) 【確定値】 b	2021(R3) 【確定値】 c	増減		2022(R4) 【速報値】
				【基準年度比】 c - a	【前年度比】 c - b	
産業部門	767	677	640	▲ 126	▲ 37	551
民生家庭部門	927	755	773	▲ 154	17	779
民生業務部門	902	542	572	▲ 330	29	581
運輸部門	609	512	517	▲ 92	4	529
その他部門	284	310	172	▲ 113	▲ 138	338
合計	3,489	2,797	2,673	▲ 816	▲ 124	2,779

2 2022(令和 4)年度の温室効果ガス排出量【速報値】

- 2021 年度の本市の温室効果ガス排出量は、速報値で 2,779 千 t-CO₂ となり、4.0%の増加が予測されます。
- これは、その他部門のうち廃棄物部門において、昨今の燃料高騰を背景に廃棄物由来燃料（廃タイヤ・RPF）の利用が増加したことが要因と考えられます。
- なお、産業部門及び民生（家庭・業務）部門の一部が未確定となっております。